

2016年度Jクイックハンドボール(U-12ゲーム様式)に対応した 競技規則改訂について



2016年1月31日

(公財) 日本ハンドボール協会審判委員会

平成27年度よりJクイックハンドボールが実施され、競技規則も「Jクイックハンドボール競技規則」として定められた。1年間の実施を受け、小学生委員会より競技規則の一部改訂が提案された。(公財)日本ハンドボール協会審判委員会では、提案の内容を受け、小学生委員会と協議の結果、下記の通り競技規則条文を定めた。

「競技規則書2016年版」(平成28年発行予定)における各条文の下に、小学生(U-12)用として<2016年度 Jクイックハンドボール>という見出しをつけて、競技規則条文を掲載する。条文は2015年度のものを使用している。

<2016年度 Jクイックハンドボール 競技規則改定の概要>

第1条 コート

1の7 ゴールキーパーライン(4mライン)は、ゴールの正面に引いた長さ15cmの直線である。ゴールラインから(ゴールラインの後端から4mラインの前端まで測って)4m離れたところに、ゴールラインと平行に引く(図1を参照)。

<2015年度 Jクイックハンドボール>

1の7 ゴールキーパーライン(4mライン)は、ゴールの正面に引いた長さ50cmの直線である。ゴールラインから(ゴールラインの後端から4mラインの前端まで測って)4m離れたところに、ゴールラインと平行に引く(図1を参照)

<2016年度 Jクイックハンドボール>

この条文をなくす。つまり、ゴールキーパーライン(4mライン)は15cmとなる。

第2条 競技時間 タイムアウト

2の1 成年・高校生のチームの競技時間はすべて、前後半各30分が標準である。休憩時間は10分が標準である。

中学生の標準の競技時間は前後半各25分である。休憩時間は10分が標準である。

小学生の標準の競技時間は「Jクイックハンドボール」のそれを標準とする。休憩時間は5分が標準である。「Jクイックハンドボール」を実施する際は、下記の通り行うものとする。

【注】 IHF大会、大陸連盟大会または国内大会において、主催者の権限でハーフタイムの時間を決定できる。しかし、ハーフタイムの最長時間は15分までとする。

<2015年度 Jクイックハンドボール>

2の1 Jクイックハンドボールを実施する場合は、競技時間を次のように定める。

- ・競技は3セット制で行い、競技時間はそれぞれ10分である。
- ・休憩時間は5分が標準である。
- ・延長戦については競技規則2:2に則り、前・後半で行う。
- ・各セットで、「セット回数表示板」をオフィシャル席中央に掲示する。「セット回数表示板」はA4規格のサイズで、1から3の数字を明確に記入する。

<2016年度 Jクイックハンドボール>

※2015年度と同様。

2の10 各チームは、正規の競技時間中の前半と後半に各1回ずつ、1分間のチームタイムアウトを取る権利がある。しかし、延長戦ではチームタイムアウトを取ることができない（競技規則解釈3）。

【注】 IHF大会、大陸連盟大会、または国内大会において、主催者の権限で1分間のチームタイムアウトの申告回数を決定できる。しかし、その回数は最高3回までであり、かつ前半、後半（延長戦は除いて）それぞれにおいて最高2回までとする（競技規則解釈3を参照）

<2015年度 Jクイックハンドボール>

2の10 各チームは、正規の競技時間中に1回のみ、1分間のチームタイムアウトを取る権利がある。しかし、延長戦ではチームタイムアウトを取ることができない（競技規則解釈3）。

<2016年度 Jクイックハンドボール>

※2015年版と同様

第9条 得点

9の2 レフェリーが次に行うスローオフの笛を吹いたならば、与えられた得点を取り消すことはできない（ただし、2:9【注】を参照）。

得点後のスローオフの実施までに、前後半の終了合図があった場合は、（スローオフを行わなくても）得点を与えたことを明示しなければならない。

<2016年度 Jクイックハンドボール>（新設）

9の2 得点のあと、レフェリーが次に行うゴールキーパースローの笛を吹いたならば、与えられた得点を取り消すことはできない（ただし、2:9【注】を参照）。

得点後のゴールキーパースローの実施までに、前後半の終了合図があった場合は、（ゴールキーパースローを行わなくても）得点を与えたことを明示しなければならない。

第 10 条 スローオフ

10 の 1 競技の開始にあたり、コイントスに勝ちボールを選択したチームがスローオフを行う。そして相手はサイドの選択権を得る。また、コイントスに勝ったチームがサイドの選択権を望んだ場合は、相手がスローオフを行うことになる。

競技の後半に両チームはサイドを交代する。競技の開始時にスローオフを行わなかったチームが、後半の開始のスローオフを行う。

各延長戦の前には改めてコイントスを行い、上記 10 : 1 の条項を延長戦にも適用する。

<2015年度 Jクイックハンドボール>

10 の 1 競技の開始にあたり、コイントスに勝ちボールを選択したチームがスローオフを行う。そして相手はサイドの選択権を得る。また、コイントスに勝ったチームがサイドの選択権を望んだ場合は、相手がスローオフを行うことになる。

各セットが終了するごとに、両チームはサイドを交代する。開始のスローオフも交互に行う。

各延長戦の前には改めてコイントスを行い、競技規則 2:2 の条項を延長戦に適用する。

<2016年度 Jクイックハンドボール>

※ 2015年度と同様

10 の 2 得点の後は、得点をされたチームのスローオフによって競技を再開する（ただし、9 : 2 の第 2 段落を参照）。

<2016年度 Jクイックハンドボール>（新設）

10 の 2 得点の後は、得点をされたチームのゴールキーパーが、レフェリーの笛の後にゴールキーパースローを行うことによって競技を再開する（ただし、9 : 2 の 2 段落を参照）。

10 の 3 （左右に約 1.5 m を許容範囲として）コート中央からどの方向へもスローオフを行ってもよい。笛の合図から 3 秒以内にスローオフを行わなければならない（13 : 1a, 15 : 7 の第 3 段落）。スローオフを行うプレイヤーは、少なくとも片足をセンターライン上に、そして他方の足をセンターライン上または自陣側（15 : 6）に置き、さらにボールを手から離すまでその位置にいないなければならない（13 : 1a, 15 : 7 の第 3 段落、競技規則解釈 5 を参照）。

スローを行うプレイヤーの味方のプレイヤーは、笛の合図よりも前にセンターラインを踏み越えてはならない（15 : 6）。

<2015年度 Jクイックハンドボール>

10 の 3 スローオフは得点されたチームのゴールキーパーによって、ボールがゴールエリアラインを越えるようにスローされなければならない。笛の合図から 3 秒以内にスローオフを行わなければならない (13 : 1a, 15 : 7 の第 3 段落)。

スローオフを行うゴールキーパーは、少なくとも片足をゴールキーパーライン上に置き、さらにボールを手から離すまでその位置にいななければならない (13 : 1a, 15 : 7 の第 3 段落, 競技規則解釈 5 を参照)。

ゴールキーパーの投げたボールがゴールエリアラインを完全に通過したとき、スローオフを行ったと見なす (ゴールキーパーズスローと同じ)。

<2016年度 Jクイックハンドボール>

10 の 3 (延長戦も含めて) 各セットの開始のスローオフはコート中央から行う。

得点の後、得点されたチームのゴールキーパーは、ボールがゴールエリアラインを越えるようにゴールキーパーズスローを行わなければならない。 笛の合図から 3 秒以内にスローを行わなければならない (13 : 1a, 15 : 7 の第 3 段落)。ゴールキーパーズスローを行うゴールキーパーは、ゴールエリア内のどこからでもレフエリーの笛の後にスローを行うことができる。

ゴールキーパーの投げたボールがゴールエリアラインを完全に通過したとき、ゴールキーパーズスローを行ったと見なす。

10 の 4 (延長戦も含めて) 前後半の開始時のスローオフに際して、すべてのプレイヤーは自陣のサイドにいななければならない。

しかし、得点後のスローオフに際しては、スローオフを行うチームの相手プレイヤーはコートのどちらのサイドにいてもよい。

しかしどちらの場合も、スローオフを行うチームの相手プレイヤーは、スローオフを行うプレイヤーから 3 m 以上離れていななければならない (15 : 4, 15 : 9, 8 : 7c)。

<2015年度 Jクイックハンドボール>

10 の 4 (延長戦も含めて) 各セット開始時のスローオフに際して、すべてのコートプレイヤーは自陣を問わず、プレーイングエリアのどの位置にいてもよい。

これは、得点後のスローオフに際しても同様に扱う。

しかしどちらの場合も、スローオフを行うチームの相手プレイヤーは、ゴールキーパーラインから 3 m 以上離れていななければならない (15 : 4, 15 : 9, 8 : 7c)。

<2016年度 Jクイックハンドボール>

10 の 4 (延長戦も含めて) 各セット開始時のスローオフに際して、すべてのプレイヤーは自陣のサイドにいななければならない。この場合、スローオフを行うチームの相手プレイヤーは、スローを行うプレイヤーから 3 m 以上離れていななければならない。 (15 : 4, 15 : 9, 8 : 7c)

第 12 条 ゴールキーパースロー

12 の 2 ゴールキーパーは、レフェリーの笛の合図なしで（ただし、15：5b を参照）、ボールがゴールエリアラインを越えるようにゴールエリアからゴールキーパースローを行う。

ゴールキーパーの投げたボールがゴールエリアラインを完全に通過したとき、ゴールキーパースローを行ったと見なす。

相手チームのプレーヤーはゴールエリアラインのすぐ外にいてもよいが、ボールがゴールエリアラインを通過するまで、ボールに触れることはできない（15：4、15：9、競技規則解釈 8：7c）。

<2016年度 Jクイックハンドボール>（新設）

12 の 2 ゴールキーパーは、レフェリーの笛の合図なしで（ただし、15：5b を参照）、ボールがゴールエリアラインを越えるようにゴールエリアからゴールキーパースローを行う。ただし、得点された後のゴールキーパースローはレフェリーの笛の合図の後に行わなければならない。

ゴールキーパーの投げたボールがゴールエリアラインを完全に通過したとき、ゴールキーパースローを行ったと見なす。

相手チームのプレーヤーはゴールエリアラインのすぐ外にいてもよいが、ボールがゴールエリアラインを通過するまで、ボールに触れることはできない（15：4、15：9、競技規則解釈 8：7c）。